

図2のネットワーク環境により、他地区からも容易に検索できる。またシステムの保守・点検も一カ所でのよいので、それらの工数削減も可能となる。

5. 提供される情報

図3の検索後のフィードバックデータの一例に示すように、提供される情報は以下の5点である。

- (1) 橋梁諸元：工事名，用途形式，構造形式，架設工法，構造部位 など検索のキーワードとなる情報
- (2) 問題要約：発生した問題点やトラブル事例の概要。概要とキーワードだけをリストアップ可能。
- (3) 問題例：発生した問題点の内容の情報で、トラブル事例の具体的な内容である。
- (4) 原因・理由：問題やトラブルが発生した理由の情報
- (5) 処理・防止へのポイント：発生したトラブルの改善策などの情報

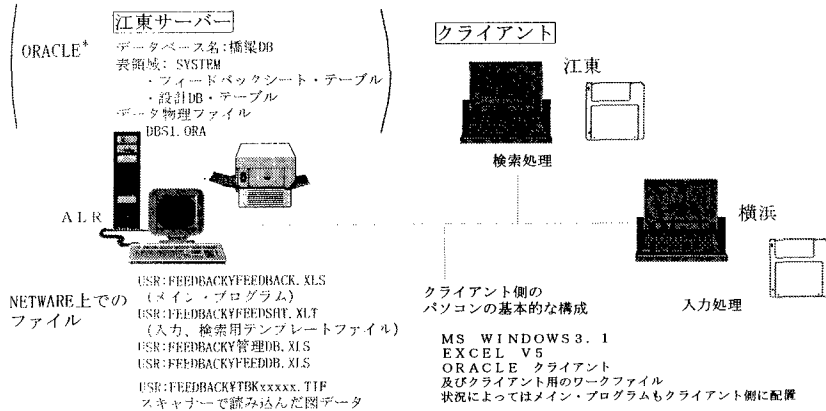


図2 ネットワーク環境

橋梁設計・製作・架設フィードバックシート			
表題	補強アングル材のボルト締めつけが不可		
区分	区間橋		
用途形式	水害橋		
架設工法	トラベラークレーンによる吊り上げ工法		
構造形式	鋼橋	次梁	主梁
作業分種	設計	製作	架設
対象項目	設計	製作	架設
工事名	工事名別名		
受注番号			
発注者			
調査資料名	調査ファイル TBR004407.TIF		
正式調査資料名			
要約	補強アングル材に100E100を110E100に切り替え、取付ボルト穴の位置を90mmから100mmによりアングルが横折れに使用した。		
問題例	補強アングル材に100E100を110E100に切り替え、取付ボルト穴の位置を90mmから100mmによりアングルが横折れに使用した。		
原因・理由	設計時点で使用するボルトの規格に適合するボルトの寸法が考慮されていなかった。 取付穴（取付ボルト穴）を使用しているため、取付ボルト（本図）があり、孔あけが生じる。		
処理・防止へのポイント	取付穴（取付ボルト穴）に100E100を110E100に切り替え、取付ボルト穴の一を90mmから100mmに変更した。 アングル上部の孔を34.5x48の孔とした。 防止：設計時及び、施工計画時に時刻の調査など十分な調査が必要である。		

図3 フィードバックデータの一例

6. おわりに

今回のフィードバックシステムの開発により、フィードバック情報の共有化・一元化が図られ、今後も、フィードバック情報に限らず、技術情報の電算化・一元化・集約化が進められていく。